

My 薔薇図鑑を夢見てーその 1

島田俊幸

定年の 5 年前に会社で定年に備えての研修がありました。

そこで、経済や健康・お金の話等があり、
趣味の話もありました。

- ・個人で楽しむ趣味
- ・仲間と楽しむ趣味

両方持つことが必要だと言われました。

当時、これといった趣味がなかったので

コンデジで写真を撮ってみようと思い、ソニーのサイバーショット S70 を購入しました。

決め手は、カールツァイスのレンズです。

いろいろ撮影してみましたが一番のお気に入りがバラの花でした。

カラーバランスは、派手目ではありますが嫌味がなく透明感があるのが魅力です。

(添付写真“プロミス”を参照ください。)

欠点は、立ち上がりに時間がかかることとバッテリーがすぐ上がってしまうこと。

そこで、クラブツーリズムの撮影ツアーで講師の使用していたキヤノン Kiss デジタル N を購入することにしました。

一眼レフですので 17-85mm、70-300mm に加え 60mm マクロの 3 本で撮影をすることとなったのです。

被写体は、花が多かったですね。

そしていつしかバラにはまってしまったわけです。

ー次回へ続くー



My 薔薇図鑑を夢見てーその2

島田俊幸

キャノン Kiss デジタル N を使ってたくさん写真を撮りました。
そして、2007 年の 5 月に生田緑地にて一番のお気に入りのバラ写真が撮れました。
しかし、名札がなく品種名がわかりません。
秋の開催の時に会場に持参したのですが、
「写真では、本当の花色がわからないので無理。」
「春と秋で同じ木でも花色が違うので見つけられない。」などなど。
結局、品種名がわからないことがわかりました。
(私は、たぶん、カトリーヌ・ドゥヌーブだと思う。
データ キャノン Kiss デジタル N 、EF-S 60mm マクロ、1/160 秒 絞り f9.0)



カトリーヌ・ドゥヌーブ

これがきっかけとなり各地のバラ園にて、季節を変え、いろいろなバラを撮影し、見比べています。

新宿御苑、神代植物公園、大船植物園、鎌倉文学館などにも行きました。

機材も

本体がキャノン 7D、5D Mk.III、Kiss X7 と増え

レンズも 70-200mm、100mm マクロ、24-70mm と増えてゆきました

ふと気が付くとバラの種類が 100 種類を超えていました。

そこで「My 薔薇図鑑」として纏めたいと思うようになりました。

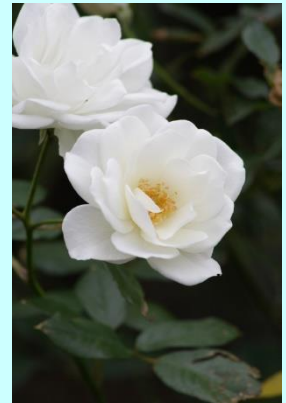
ところが、私の知識不足のためいくつかの障害が見えてきました。

- ・同一品種なのに名前が複数あるものがあるようです。

(アイスバーグとシュネービェチェン)



アイスバーグ



シュネービェチェン

・同じ呼び名なのに別の品種に見えるものがあります。

(聖火、せいか)

他にもあるかもしれません。いや、あると思います。



聖火



せいか

また、バラの花によっては、

・先はじめと満開で花の芯の部分の形が違う

(ニコール)



ニコール 1



ニコール 2

・咲きはじめと満開時で花の色が変わる

(チャールストンは、黄色から赤に変化する)



チャールストン

もちろん、イメージの変わらない品種がほとんどですが、
全部の状態を記録することは難しいし、
どの状態でもきれいと感じるわけではないので掲載写真の選択に苦労します。

・・・・・・「My 薔薇図鑑」作製の完成は、まだまだ先になりそうです。

－次回へ続く－

※ 次回は、バラ撮影の“拘り”について書いてみようと思っています。

My 薔薇図鑑を夢見てーその3

島田俊幸

“拘り”

薔薇図鑑を目指すのに一番拘っているのは、“色”です。

私のバラの写真を見てほとんどのカメラマンは、「色違いの写真」としか見ていません。

この視点は、ある意味正しい。

「グリーンライフかわさき Vol. 34」の花時計という記事の中にピースという名のバラについて「・・・交配親としても多く使われて直系の品種だけでも 280 種類以上・・・」という記載があります。普通のカメラマンには、区別がつかなくて当然です。

なかには、“枝変わり”といってピースの木に違う色の花が咲きそれを品種としたものもあり



ピース



シカゴピース

ます。それらは、モノクロで撮ったならほとんど同じ花形に写ります。

(例：シカゴピース)

また、黒バラと呼ばれる品種は、キヤノンのカメラでは、うまく再現できずてこずっています。思い通りの色に補正できた時の達成感は特別です。

(例：パパ・メイアン) 園芸好きな私にとって色の違いは、非常に気になる点なのですが、作品作りにはあまり重要ではないようです。

次は、花全体を撮ること。

例えば、ダブルデライトという花は、中央がクリーム色で外側に赤い色が付きます。

この花の巻きの部分だけ写したなら、造形としては、美しいのかもしれませんが、この撮り方では品種が特定できません。やはり全体を写して頂きたいです。



パパ・メイアン



ダブルデライト

最近拘り始めたのが花の付き方や樹形です。

HT（ハイブリットティー・ローズ）は茎の先に大輪の花を1つ付ける。

F（フロリバンダ・ローズ）は中輪で花束のような房咲です。

私は、イングリッシュローズを“ルドゥーテ”の図鑑のような、繊細な感じが表現できたならうれしいです。（例：ウイリアム・モリス）

また、これからは、花とともに飾りつけも写して行きたいと思っています。

（例：スパニッシュ・ビューティー）



ウイリアム・モリス



スパニッシュ・ビューティー

長い間お読み頂きありがとうございました。

—おしまい—